

日にあらたに



札幌市立日章中学校
学校便り 第 479 号
令和 7 年 1 月 24 日発行
TEL831-6196 FAX831-2754
<https://www.nissho-j.sapporo-c.ed.jp>

◇ 1 学年 ボランティア活動

『 スノーキャンドルボランティアのねらい 』

生徒会副会長 1 年生徒

スノーキャンドルボランティアのねらいは、2 つあります。1 つは、阪神・淡路大震災で被災された方々を追悼する、ということです。キャンドルを灯すことに、故人の新たな道を照らしてこの世から見送る、という意味が込められているため、追悼することとキャンドルを灯すことは深く関わっています。もう 1 つは、ボランティアをすることに対して興味をもつ、ということです。この 2 つを頭に入れたうえで、先輩方が受け継いでくださった伝統を繋ぐためにも、スノーキャンドルボランティアに真剣に取り組んでほしいです。

◇ スノーキャンドルボランティアを振り返って

『 スノーキャンドルボランティアを終えて 』

1 年 1 組 代表生徒

3 学期が始まり、すぐに雪像・スノーキャンドル作りの学年活動がありました。この活動は「阪神・淡路大震災」で亡くなられた方々へ追悼の意を込めて毎年行っていますが、今年は 30 年という節目の年です。年月が経過すると少しずつ風化してしまうかもしれませんが、震災はいつ自分の身に起こってもおかしくない出来事だと思うので、決して忘れてはいけないことだと思います。なので、皆で同じ思いをもってこの活動を行うことの大切さを改めて感じました。寒い中での活動でしたが、協力してできたので良かったです。





『 みんなとの交流 』

1年4組 代表生徒

私は雪像を作るグループで雪像を作りました。雪像と一緒に作った人たちとどう作るかななどを話してあまり話したことがない人ともコミュニケーションをとれました。そのコミュニケーションによってたくさんの人と交流できてスノーキャンドルボランティアをやる前より仲がよくなったと感じました。さらにスノーキャンドルを作った人たちも頑張ったなどの意見があり、スノーキャンドルを作った人たちも作った人たちの中でスノーキャンドルボランティアをやる前より仲が良くなったと感じました。

『 スノーキャンドルボランティアを振り返って 』

1年5組 代表生徒

今回のボランティア活動で、阪神淡路大震災へのボランティアを始めた人の思いなどを聞いてとても大切な活動だと思いました。このボランティア活動は、震災を経験していない人たちにも震災のことを知ってもらえる機会だとも思いました。また、この活動で震災のことだけでなく、班で協力して活動することができて良かったです。私は普段ボランティアに参加することがあまりないので、スノーキャンドルづくりなどでボランティアに参加できて良かったと思いました。

『 初めてのスノーキャンドルボランティアで 』

1年3組 代表生徒

スノーキャンドルを作るときの説明などで大変そうで難しそうだと感じましたが、班で役割を分担して効率よく進めることができました。雪の固め方がゆるくて持っていったら壊れてしまったり、雪をいれるときに被ったりすることすべてが楽しかったです。学校の授業内で阪神淡路大震災の復興を願う取り組みができるのは、震災を忘れないためだけではなく、身近にあるものだと再確認させてもらえるいい機会だと思いました。





『 スノーキャンドルボランティアを振り返って 』

1年2組 代表生徒

僕のクラスはキャンドルチームと雪像チームに分かれました。僕は雪像チームでした。みんなで手分けして「しろっぴー」を作りました。最後に指で顔をかいたら、歪んでしまいました。みんなで笑っていたら時間がなくなりかき直すことができませんでした。

僕はこの活動を通してクラスで協力して、失敗しても1つのものを作るのは楽しいと感じました。このクラスで最高の3学期をつくりたいと思いました。



「学校づくりプロジェクト」

よりよい学校を自分たちでつくるために、「生活の三本柱」の意義について考えを出し合いました。1/17

